

エジプト

Arab Republic of Egypt

		2011/12年度	2012/13年度	2013/14年度
①人口：8,578万人（2014年1月1日）	④実質GDP成長率（%）	2.2	2.1	1.2
②面積：100万1,450km ²	⑤消費者物価上昇率（%）	8.6	6.9	8.9
③1人あたりGDP：3,226米ドル （2013年）	⑥失業率（%）	12.0	12.7	13.4
	⑦貿易収支（100万米ドル）	△34,139	△33,299	△15,439
	⑧経常収支（100万米ドル）	△10,146	△7,426	△756
	⑨外貨準備高（100万米ドル、 期末値）	14,916	11,623	13,608
	⑩対外債務残高（グロス） （100万米ドル、期末値）	34,385	43,233	45,752
	⑪為替レート（1米ドルにつき、 エジプト・ポンド、期中平均）	6.02	6.31	6.94

〔注〕 年度は7月～翌年6月。⑤：2013/14年度は2014年4月時点。③⑥⑨⑩：暦年（⑥の2013/14年度は2014年3月末時点）。④⑦⑧：2013/14年度は上半期分（2013年7～12月。前年同期比）。⑦⑧：2012/13、2013/14年度は暫定値。⑩：2011/12、2012/13年度は2012、13年の6月末時点。2013/14年度は2013年12月末時点（暫定値）

〔出所〕 ①⑥：エジプト中央動員統計局、②：エジプト国家情報サービス庁、③⑨⑩：IMF、④⑤⑦⑧⑩：エジプト中央銀行

政変後の経済の低迷続く

エジプト経済は、2011年1月の政変以降の低迷が続いており、2012/13年度（2012年7月～2013年6月）の実質GDP成長率は2.1%となった。個人消費は、経済低迷による失業や所得低下などにより、前年度の6.5%増から伸びが鈍化し2.8%増となった。国内総固定資本形成は、民間企業による設備投資が減速したことなどを背景に、9.6%減となった。

国際収支をみると、財貨・サービスの貿易は赤字が続いている一方、海外で働くエジプト人からの送金が増え、経常収支の赤字幅は縮小している。外貨準備高は政変があった2011年1月以降、低い水準で推移している。2013/14年度に入り、2013年7月3日の軍主導によるムスリム同胞団系モルシ大統領の排除以降、これを歓迎するサウジアラビアやアラブ首長国連邦、クウェートからの経済支援で当面の危機は回避したが、その後も適正水準である輸入額の3カ月分には達していない。IMFによる48億ドルの融資

については、モルシ大統領が税制や補助金改革を含む財政赤字削減への取り組みを決め、2012年11月にはIMFと暫定合意したが、緊縮財政への反発などを懸念して正式合意は保留していた。モルシ氏退陣後の暫定

政権も非優先事項として交渉を拒否したため、進展はみられていない。

モルシ氏退陣後の暫定首相に任命された元財務相でエコノミストのビブラーウィ氏率いる暫定内閣は、湾岸諸国の経済支援を後ろ盾に拡張的財政政策による経済立て直しを目指したが、暫定政権ゆえの決定の遅さなどから期待された結果を出せず、2014年2月には総辞職した。首相ポストは元住宅相で大手建設会社出身、軍とのつながりも強いメヘレブ氏に引き継がれた。5月26～28日には大統領選挙が実施され、投票率47.1%、得票率97.0%でシシ元国防相が当選した。シシ大統領はメヘレブ首相に続投を命じ、2014年6月、約1年ぶりの正式な政府が発足した。

貿易赤字は引き続き拡大

2013年の貿易（1～12月、通関ベース）は、輸出が前年比5.9%増の1,977億1,359万エジプト・ポンド（以下、

表1 エジプトの主要品目別輸出入<通関ベース>

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年		2013年			2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
鉱物性燃料・同製品	61,065	52,116	26.4	△14.7	機械機器	96,234	100,450	21.9	4.4
化学品・薬品	24,371	24,516	12.4	0.6	鉱物性燃料・同製品	89,935	63,922	14.0	△28.9
綿花・繊維製品・衣類	20,065	21,376	10.8	6.5	金属・同製品	61,313	57,574	12.6	△6.1
農産品（綿花除く）	17,209	19,292	9.8	12.1	農産品（綿花除く）	57,346	52,095	11.4	△9.2
金属・同製品	17,257	17,871	9.0	3.6	化学品・薬品	40,151	41,987	9.2	4.6
機械機器	10,964	11,295	5.7	3.0	綿花・繊維製品・衣類	20,079	22,087	4.8	10.0
加工食品	8,791	9,743	4.9	10.8	加工食品	21,280	18,740	4.1	△11.9
書籍、製紙	3,291	2,815	1.4	△14.5	書籍、製紙	9,294	9,570	2.1	3.0
家具・同関連製品	2,277	2,601	1.3	14.2	家具・同関連製品	1,704	1,980	0.4	16.2
皮革・同製品	835	1,214	0.6	45.5	皮革・同製品	407	414	0.1	1.7
合計（その他含む）	186,769	197,714	100.0	5.9	合計（その他含む）	441,936	457,849	100.0	3.6

〔注〕 再輸出を含む。ドル・ベースをエジプト・ポンドに換算（1ドル＝6.9 LE）。

〔出所〕 エジプト中央動員統計局

表2 エジプトの主要国・地域別輸出入<通関ベース>

(単位：100万LE、%)

	輸出 (FOB)					輸入 (CIF)			
	2012年	2013年				2012年	2013年		
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
イタリア	14,363	18,562	9.4	29.2	中国	41,293	48,093	10.5	16.5
インド	12,785	14,663	7.4	14.7	ドイツ	29,100	36,034	7.9	23.8
トルコ	9,776	11,992	6.1	22.7	米国	33,243	35,786	7.8	7.6
米国	13,018	8,120	4.1	△37.6	イタリア	21,469	24,374	5.3	13.5
英国	5,254	6,661	3.4	26.8	ウクライナ	24,218	21,650	4.7	△10.6
フランス	6,521	6,624	3.4	1.6	トルコ	21,540	18,037	3.9	△16.3
韓国	1,715	4,874	2.5	184.1	ブラジル	17,964	15,649	3.4	△12.9
ドイツ	3,997	4,386	2.2	9.7	インド	14,024	15,578	3.4	11.1
スペイン	6,307	4,366	2.2	△30.8	フランス	14,332	14,619	3.2	2.0
日本	6,166	3,137	1.6	△49.1	日本	10,896	9,957	2.2	△8.6
合計 (その他含む)	186,769	197,714	100.0	5.9	合計 (その他含む)	441,936	457,849	100.0	3.6

[注] 再輸出を含む。

[出所] エジプト中央動員統計局

LE)、輸入が3.6%増の4,578億4,914万LEとなり、それぞれ増加した。貿易赤字は2,601億3,555万LEとなり、赤字幅は前年に引き続き拡大した。

輸出を品目別にみると、上位10品目は前年と大きく変わらないが、最大品目の鉱物性燃料・同製品（構成比26.4%）は前年比14.7%減と2桁の減少となった。発電用の燃料不足から、輸出分を国内に振り向けたことなどが影響したとみられる。そのほか、化学品・薬品（12.4%、0.6%増）、綿花・繊維製品・衣類（10.8%、6.5%増）、農産品（9.8%、12.1%増）、金属・同製品（9.0%、3.6%増）と続いた。

輸出を地域別でみると、EU向けが前年比3.0%増、アラブ諸国向けが4.0%増となった。国別では、イタリア（29.2%増）、インド（14.7%増）、トルコ（22.7%増）、米国（37.6%減）、英国（26.8%増）の順となった。

輸入も上位10品目に大きな変化はなかった。最大品目の機械機器（構成比21.9%）は前年比4.4%増加した一方、鉱物性燃料・同製品（14.0%）は28.9%減と大幅に減少し、そのほか金属・同製品（12.6%、6.1%減）、農産品（11.4%、9.2%減）、加工食品（4.1%、11.9%減）なども減少した。

輸入を地域別でみると、EUからの輸入は前年比4.0%増加した。アラブ諸国を除くアジア地域は5.0%減だった。国別では、中国が16.5%増で前年に続き最大となり、ドイツ（23.8%増）が2位、米国（7.6%増）が3位だった。輸出先1位のイタリア（13.5%増）が4位につけ、輸入でも存在感を示した。小麦の調達先のウクライナ（10.6%減）は5位だった。

■対内直接投資の流入額は18.3%減

エジプト中央銀行によると、2012/13年度の対内直接投資額（国際収支ベース、フロー、暫定値）は、流入が

96億1,400万ドルと前年度比18.3%減少した。流出が42.9%減の44億3,000万ドルにとどまったため、ネットでは51億8,400万ドルの流入超過となった。

2012/13年度第3四半期まで（2012年7月～2013年3月）の部門別投資流入は、全体の68.7%を占める石油部門が引き続き最大で、受け入れ額は前年度同期比1.4%増の47億2,400万ドルであった。続くサービス部門（構成比7.5%）は12.8%増加し、うち大部分を占める金融（5.5%）が約3.2倍の3億8,000万ドルと大きく伸びた。一方、製造部門（3.4%）は66.4%減と大幅に減少し、2億3,000万

表3 エジプトの主要国・地域別対内直接投資<国際収支ベース、フロー>

(単位：100万ドル、%)

	2011/12年度	2012/13年度		
	金額	金額	構成比	伸び率
英国	5,820	3,338	34.7	△42.6
米国	578	2,183	22.7	277.9
ベルギー	2,089	720	7.5	△65.6
アラブ首長国連邦	560	481	5.0	△14.1
カタール	35	376	3.9	976.2
バーレーン	316	266	2.8	△15.7
フランス	153	263	2.7	72.3
サウジアラビア	240	192	2.0	△20.3
ドイツ	203	186	1.9	△8.0
トルコ	13	169	1.8	1,253.6
オランダ	409	164	1.7	△60.1
スイス	125	115	1.2	△7.5
日本	37	98	1.0	168.1
イタリア	193	75	0.8	△61.1
インド	53	68	0.7	28.0
中国	74	49	0.5	△33.7
クウェート	64	46	0.5	△26.9
シンガポール	9	45	0.5	400.0
スウェーデン	310	40	0.4	△87.1
スペイン	61	30	0.3	△50.2
流入計 (その他含む)	11,768	9,614	100.0	△18.3
流出計	7,759	4,430		△42.9
ネット	4,009	5,184		-

[注] 2012/13年度は暫定値。

[出所] エジプト中央銀行

ドルとなった。

国別で見ると、英国が全体の34.7%を占め引き続き最大だが、投資額は前年度比42.6%減の33億3,800万ドルとなった。以下、米国（構成比22.7%、3.8倍）、ベルギー（7.5%、65.6%減）、アラブ首長国連邦（5.0%、14.1%減）が続いた。2013年3月にカタール国立銀行が仏ソシエテ・ジェネラルのエジプト部門を25億ドルで買収したことが影響し、カタールからの投資が前年度比約11倍となった。このほかの主な投資案件は、仏トタルによるロイヤル・ダッチ・シェルのエジプト小売り事業（2013年5月）、シェブロンエジプト小売り事業（2013年8月）の買収があった。中国石油化工集团公司（シノペック）は2013年8月、石油部門最大の外資系企業の一つの米アパッチのエジプトでの石油・ガス事業権益の3分の1を31億ドルで取得すると発表した。

■日本の貿易黒字は減少、投資は引き続き増加

日本の「貿易統計（通関ベース）」をドル換算すると、2013年の日本の対エジプト貿易は、輸出が前年比30.5%減の12億2,068万ドル、輸入が41.0%減の7億2,041万ドルとともに減少した。日本側の貿易黒字額は、5億26万ドルと前年の5億3,512万ドルからわずかに縮小した。

輸出では、自動車・鉄道車両を含む輸送機器（構成比43.6%、前年比21.4%減）が最大で、蒸気タービンやディーゼルエンジンを含む一般機械（23.1%、46.6%減）、次いで、鉄鋼やゴム製品を含む原料別製品（16.3%、12.7%減）とそれぞれ減少した。輸入では、91.1%を占め最大品目の鉱物性燃料が、日本の化石燃料の需要増で急増した前年の反動から43.1%と大幅に減少した。うち70.5%を占める液化天然ガス（46.4%減）や19.9%を占める揮発油（30.2%減）の減少が影響した。

エジプト中央銀行によると、2012/13年度の日本の対エジプト直接投資額（国際収支ベース、フロー、暫定値）は、前年度比2.7倍の9,800万ドルだった。

投資案件をみると、日立メディコが2012年7月、医療機器販売・サービス会社の現地法人ヒタチ・メディカル・システムズ・ミドル・イースト・エスエーイーを設立した。日本たばこ産業は2012年11月、現地大手水たばこ会社ナハラを買収すると発表した。東京海上ホールディングスは2013年4月、生保・損保業の現地法人を完全子会社化した。日本工営は2010年10月からカイロ地下鉄4号線第1期整備事業に取り組んでおり、2013年7月には駐在員事務所を設立した。神戸物産は2008年にエジプト南部ケナ近郊に大規模農場（総面積3,000ヘクタール）用の

表4 日本の対エジプト主要品目別輸出入<通関ベース>
(単位:100万ドル、%)

	2012年		2013年	
	金額	金額	構成比	伸び率
輸出総額（その他含む、FOB）	1,755	1,221	100.0	△30.5
輸送機器	677	532	43.6	△21.4
自動車	461	447	36.7	△2.9
乗用車	161	135	11.0	△16.5
バス・トラック	284	294	24.1	3.7
自動車の部分品	96	80	6.5	△16.7
二輪自動車	4	3	0.2	△26.0
一般機械	528	282	23.1	△46.6
原動機	331	113	9.3	△65.8
ポンプ・遠心分離機	48	40	3.3	△17.9
建設用・鉱山用機械	41	30	2.4	△26.5
原料別製品	227	198	16.3	△12.7
鉄鋼	87	96	7.9	10.6
ゴム製品	113	76	6.3	△32.6
金属製品	11	13	1.1	22.4
電気機器	200	76	6.3	△61.8
電気回路等の機器	27	11	0.9	△57.2
電気計測機器	9	8	0.6	△11.8
重電機器	97	6	0.5	△93.7
通信機	8	3	0.3	△61.2
輸入総額（その他含む、CIF）	1,220	720	100.0	△41.0
鉱物性燃料	1,154	656	91.1	△43.1
液化天然ガス（LNG）	947	508	70.5	△46.4
石油製品	207	148	20.5	△28.4
揮発油	206	144	19.9	△30.2
原料品	12	13	1.8	7.0
食料品	10	12	1.7	19.3
果実	5	6	0.8	32.6
野菜	4	4	0.6	4.4
化学製品	21	2	0.2	△92.4
有機化合物	6	0	0.0	△100.0
原料別製品	11	12	1.7	16.2
鉄鋼	0	2	0.2	1,716.5
織物用糸・繊維製品	7	7	1.0	0.9
非金属鉱物製品	3	3	0.4	4.3
その他	11	24	3.3	127.9
衣類・同付属品	7	9	1.2	29.7

[出所] 財務省「貿易統計（通関ベース）」を基に作成

農地を購入して土地造成を進めていたが、2014年4月中旬には初の小麦収穫を行った。同社は将来的には同農場で収穫した作物の加工品を自社が日本で運営する業務スーパーで販売する計画だ。

直近では、シャープが2014年4月、2012年12月に発表していたエル・アラビとの連携拡大による、中近東・アフリカ向け冷蔵庫の生産・販売を開始したほか、2014年6月には、大塚ホールディングス子会社のエジプト大塚製菓が、エジプトの輸液製造販売会社アテコ・ファーマ・エジプト持ち分の80%を取得し、子会社化することでアテコと合意し、2014年6月17日に契約を締結する事例などがみられた。このほか、日立アプライアンスは2014年4月、現地エアコン組み立て・製造大手ティーバグループと組んで、同グループがテンス・オブ・ラマダン市に所有する工場において日立ブランドのエアコンの組立生産をする旨発表している。